

令和 3 年度 豊田工業高等専門学校教員顕彰理由書

情報工学科 准教授 平野 学

平野学准教授は、平成 16 年 4 月に着任して以来、以下の活動に取り組んできた。

学校運営においては、平成 17 年度、18 年度、20 年度に寮務主事補を務め、21 年度から 24 年度まで総務主事補（専攻科担任を兼任）を務め、平成 25 年度から令和 3 年度まで情報工学科クラス担任を務めている。平成 21 年度から平成 24 年度までは教育改善推進室ならびに JABEE 関連資料室員を務めた。平成 20 年度から平成 23 年度までマルチメディア情報教育センター室員を務め、平成 27 年度からは ICT セキュリティ教育センター副センター長として安全なネットワークの維持とセキュリティ教育に尽力している。

教育活動においては、情報工学科における情報通信とセキュリティ分野の講義にアクティブラーニングを導入、実習と座学を組み合わせた魅力的な授業の拡充に尽力している。情報工学科 4 年の「エンジニアリングデザイン II」では学生が 4～5 人のグループに分かれて自由にテーマを決めてウェブアプリケーションを共同開発し、開発した作品をオープンキャンパスで展示している。情報工学科 4 年の「情報ネットワーク論」ではネットワーク機器で世界最大手の Cisco 社が提供する e ラーニング教材 Networking Academy とラボ（実機演習）を導入している。Networking Academy は高専のセキュリティ教育プロジェクトである K-SEC にも導入されている。令和 2 年度には CCNA (Cisco Certified Network Associate) version 7 の英語教材の日本語監訳に協力した。令和 2 年度から K-SEC のサイバーセキュリティ人材育成プロジェクトに参加し、他高専の教員とセキュリティ教材の開発に取り組んでいる。課外活動においてはコンピュータ部の顧問ならびに水泳部の副顧問として全国高専プログラミングコンテスト、パソコン甲子園、セキュリティコンテスト等の大会指導に尽力している。

研究活動においては、2016 年と 2019 年に IEEE Nagoya Section から共著学生が Student Paper Award を受賞、2016 年には情報処理学会全国大会にて学生奨励賞を受賞、2021 年には情報処理学会コンピュータセキュリティ研究会にて優秀研究賞を受賞している。科研費の採択状況は、若手研究 (B) (2 回、2009-2010 年、2011-2012 年)、基盤研究 (C) (3 回、2014-2016 年、2017-2020 年、2020 年-2024 年) である。2020 年度には研究室の学生が、経済産業省・文部科学省・警察庁他が後援する「第 15 回情報危機管理コンテスト」(セキュリティ技術を競う全国規模の大会) にて文部科学大臣賞を受賞した。学術的な実績として査読付き学術論文 17 件 (2021 年に accept された国際ジャーナル、国際会議プロシーディング含む)、査読無し論文発表 61 件がある。

社会貢献活動、その他に関しては電子情報通信学会の学生委員を平成 26 年度から継続して務めている。さらに中学校での出前授業 (2019 年、2021 年)、情報工学科のホームページ刷新 (令和 3 年度) などをおして、本校の PR 活動に務めている。

上記のとおり、平野学准教授は、本校教職員からの支援を受けながら、学校運営、教育活動、研究活動、社会貢献活動などに貢献があったため顕彰する。

令和3年度 豊田工業高等専門学校教員顕彰理由書

電気・電子システム工学科 准教授 熊谷 勇喜

熊谷勇喜准教授は、平成30年4月に着任して以来、教育、研究および学校運営の各方面において次のような業績を残している。

学校運営においては、令和元年度から学生主事補を務め、おもに交通担当として学生の交通安全指導に携わった。交通違反した学生に対する指導を手厚く行い、交通事故につながる重大な違反を起こさせないよう努めた。在学生にとって生命に関わる可能性が最も高い活動の一つが通学中の事故であると意識し、自動車等を使用する学生には定期的な講習会以外の機会にも話し伝え、交通安全意識を啓蒙することに努めた。コロナ禍における通学生の増加により、自転車通学や自動車通学の学生が増えることを見越し、事故を防止しつつ安全に通学させるための臨時講習会の実施、駐輪場や駐車場が不足することを予想した調整作業等に尽力した。

平成30年度から令和2年度まではキャリア教育支援室員として、低学年のうちから将来の技術者像についてイメージをもたせるため、自らの企業人経験を話題にしながら進路を考えさせる企画に尽力した。

平成30年の着任以降、ロボコンBチームの指導教員となり、電気・電子システム工学科の教職員とともにロボット製作の指導にあたった。学生に寄り添いつつ、規律やマナーを身に着けるよう指導を行った。一方、自由で突飛な発想をもった学生にはその創造力を活かせるよう、学生リーダーに対し、適切な役割・編成・環境を意識したチーム作りをするようアドバイスした。そして、学生や教職員から寄せられる様々な意見を集約・調整し、チーム運営を指導した結果、着任から3年連続で地区大会準優勝、全国大会出場の実績を挙げた。コロナ禍においては、学生が自宅で作業ができるよう作業環境を整え、学校再開後には感染対策と安全性に配慮しながら、オンライン大会を成功裏に導いた。

クラブ活動支援では、柔道部副部長教員として指導に携わり、柔道経験者として学生と練習をともにしつつ、競技指導よりもむしろ学生の居場所としてのクラブの雰囲気づくりに力を注いだ。

研究面においては、半導体集積回路設計に関する研究室を立ち上げ、学生とともに学会発表を行っている。他高専教員への設計環境の水平展開を行い、科学研究費基盤研究Cの研究分担者として集積回路の設計に協力している。また、本校教員とも研究連携し、共著で論文を執筆するなど実績を挙げている。

地域連携として着任以降、社会人向けの電気電子回路に関するリカレント教育の講座に携わっている。モーター制御に関する講座やロボットアームに関する講座を担当しており、受講生アンケートでは高い評価を得ている。

以上のとおり、熊谷勇喜准教授は、教育・学生指導・課外活動及び地域連携の各方面での活動に顕著な功績があるため顕彰する。

令和3年度 豊田工業高等専門学校教員顕彰理由書

一般学科 助教 高橋 清吾

高橋清吾助教は、平成30年10月に着任して以来、学校運営および教育、研究において次のような業績を残している。

学校運営においては豊田高專着任当初から寮務運営委員会に所属し、教職員及び指導学生と協働しながら円滑な学寮運営に取り組んでいる。役職としては平成30年10月から令和元年9月までは寮務主事補を、同年10月からは寮監に着任し、寮生対応および開・閉寮業務の統括、また寮祭や寮指導学生研修会などの実施・運営について中心的な役割を果たしてきた。令和2年度からは新型コロナウイルスが蔓延する中での学寮運営となり、寮内でのクラスターが発生せぬよう寮担当教職員および寮指導学生と協力することで、安全な学寮の構築に尽力している。さらに、令和3年度の5月には、前年度コロナ禍で中止された寮祭の開催を目指し、1月中旬から寮祭実行委員長との協議・準備を進め、開催に至った。なお、寮祭実施後はコロナ感染者を出すことなく無事終えることができた。

課外活動については、水泳部とインターアクトクラブの副部長教員を務め、他の教員と共に学生サポートを行っている。教育面においては、本科1年生、4年生、5年生および専攻科1年生対象の地理系の講義を担当している。学生が理解しやすく、地理的現象に対する興味・関心が高まることを心掛けながら毎回十分な時間をかけて教材研究を行い、授業に取り組んできた。その結果として、学生による授業評価アンケートで高い評価を収めるだけでなく、「新しい発見ができた」、「地理の奥深さを知ることができた」等の前向きなコメントも得られた。

研究面においては、幅広い人文地理学の分野の中で歴史地理学を専門とし、江戸時代の灌漑水利に関する研究を遂行してきた。豊田高專着任後は、全国学会での大会発表を2回行い、豊田高專紀要に2本の論文を掲載している。また、高橋氏の堅実な研究姿勢および研究分野の重要性が評価され、他の研究者からの共同研究の依頼を受け、それらにも取り組んでいる。例えば、科研費（基盤研究B）の分担者として日本各所の城下町の自然災害による被災状況、とりわけ水害を受けた都市の現地調査及び歴史的資料の検討を進め、被災後の都市構造の変容について解明を進めている。

また高橋氏は、自身の所属する人文科学の分野に留まらず、土木系の研究者との共同研究にも挑戦している。例えば、東京工業大学の友部遼助教とともに、全国のため池の築造年代及び施工方法や土質を確定し、技術者集団ごとの施工特性及びため池の強度特性について明確化を図る研究に携わる他、豊田高專の環境都市工学科の佐藤雄哉准教授とともに、再生可能エネルギー設備が立地する場所と自然災害による被災の関係性について、歴史地理学的観点からの検証にも着手している。

以上のとおり、高橋清吾助教は、学校運営、課外活動、教育、研究の各方面での活動に顕著な功績があるため、ここに顕彰する次第である。